

IT Topics & News

改元に伴う情報システム改修等への対応について【経済産業省】

経済産業省は2月7日に、2019年5月1日に行われる改元を前に、改元に伴って必要となる企業の情報システムの改修の段取りや工程、注意点などについて解説する説明会を全国で行うと発表した。

新元号は2019年4月1日に公表される予定だが、前回の昭和から平成への改元時に比べ、現在の情報システムは、規模や構成が大きく異なるため、前回とは異なる対応が求められる。例えば、前回の改元時はホストコンピュータ全盛時代で、情報システムはサーバーだけでなく端末も情報システム部門の強い統制下にあり、日本語版WindowsのようなOS・端末は登場前だった。Officeアプリも限定的な利用だったなど、現在の情報システムの構成とは全く異なっている。また現在は、システム間連携が広範囲化しており、かつ、手段も多様化している。ExcelやPDF等のメディアを用いた連携や、XML、JSON等のデータによる連携等があり、システム間のデータのやりとりの複雑化により、一部の情報システムの不具合が大きな影響をもたらす可能性があり、テストによる確認が不可欠な状況となっている。

このため経済産業省は、使用している情報システムに対して、以下の五項目について確認が必要であると注意喚起し、それぞれの項目について具体的なチェックポイントを示している。

①使用されている情報システム（サーバー及び端末）で和暦が使用されているか。

[ポイント] 画面表示や他のシステムとの連携で和暦が使用されていることがある。

②改修の作業計画を立てているか。

[ポイント] システム間で情報連携を実施している場合、送信側・受信側のいずれかの改元対応が未了だとエラーが生じる可能性があることに注意が必要。市販のソフトウェア（OSなどを含む）のアップデートが必要となる場合は、販売元のソフトウェア会社のHPなどで改元における対応を確認する。

③改修やアップデートなどの対応が必要かどうか。

[ポイント] 他のシステムとの連携で和暦を使用しているような場合には、連携先のシステムの作業も考慮する必要がある。

④改修後のテスト・リハーサル計画を立てているか。

[ポイント] 事前に新元号が正しく表示されるか確認する。連携している他のシステムとも送受信テストをする。

⑤改修が改元日までに終わらなかった場合の対応を考えているか。

[ポイント] ゴム印で新元号に修正するなどの方法を検討する。

行政機関等の情報システムについては、改元日までに改修を終了することを基本として準備を進めている。改元日以降、企業等の情報システムの改修が間に合わないなどの場合でも、国民から行政機関等に対して提出される文書・データ等については、「平成」表記のままでも有効なものとして受付予定である。



ITソリューションで、エコチェンジ。

三菱電機は、環境に配慮した豊かな社会を構築するために「エコチェンジ」を推進しています。

幅広い事業領域と優れた製品力、

世界最先端の環境技術により、

低炭素社会・循環型社会の実現にチャレンジ。

これからも、「より良い明日」のために挑戦し続けます。

エコチェンジ

検索

この広告についてのお問い合わせは、adv.webmaster@rf.MitsubishiElectric.co.jp または FAX.03-3218-2321 (宣伝担当) まで。

三菱電機株式会社